



祖母から受け継いだ思い出の地で 愛着のある家具とともに暮らす家

「SORAデザイン」がつくった
水俣市在住 / Iさまの住まい

長年親しんだ福岡から熊本に居を移して6年。
伸びやかな環境で子育てをしたいと願い、
祖母の思い出の詰まった場所に新居を構えた。
四季を感じる中庭空間や愛着のある家具が
Iさん一家のかけがえない時間を紡ぐ…

キッチンから見たリビング全景。
左手に中庭、その奥に玄関土間。
正面に和室と、空間をゆるやかに区切りつつも全体を見渡せる構成が心地いい



LDKと廊下を仕切るのは、ポリカーボネートの引き戸。
人の行き来を感じつつ光を渡す役割も

祖母の温かい記憶を 未来へ繋げる夫婦の決断

6年前、福岡から奥さまの地元である水俣市に引っ越してきたと言うIさんご夫妻。「結婚して仕事と育児の両立や、子育て環境を考える機会が増えました。そんな時、私の祖母が他界して10年以上そのままになっていたこの場所のことが頭に浮かんできたんです」と奥さま。「ここは祖母が長年お店を営んでいた土地。さまざまな人が代わる代わる訪れては言葉を交わして行き、たくさんの人に親しまれていました。その光景が幼心に

印象に残っています」と振り返る。「熊本で新居を建てる計画は、僕たち夫婦のライフスタイルやこれから増える家族の存在を思い描いてのもでしたが、この場所の存在も大きかったですね」とご主人は話す。

元々、釣りや料理、インテリアなど多趣味なご主人。家を建ててからさらに趣味が増えたとか。「ランニングが日課になりました。子どもたちとも川沿いを毎週末、散歩します。気が向いたら釣竿一本持って出かけられるところもとても気に入っています」と笑う。大好きな祖母も見つめてきた景色の中でIさん一家の新たな日々が始まった。

奥に長い玄関土間は、隣接する中庭からの採光でいつでも一定の明るさをキープ。同時に、玄関を開けた瞬間から一気に視界が広がる開放感を演出している





いびつな形の土地の中に
要望以上の住み心地

設計の段階でリクエストしたのは、手持ちの家具を活かすこと。そして福岡で暮らしていたころから一緒にいるミニチュアダックスのレオくんが遊ぶことのできるスペースや和室、家族の動きを感じられる空間、2台分の



2階の子ども部屋と寝室から、中庭越しに見える玄関土間

駐車場の確保など。「要望は少なくなかったはずですが、いびつな形をした敷地の中には私たちの要望がすべて盛り込まれていて、設計力の高さに驚きました」とご主人。「この場所の眺望まで見事に生かされていて感動しました」と奥さまもうれしそう。「プライベート空間と開放感を両立した構成は、さすがですね。SORAデザインのさりげない配慮には、住んでみて改めて感動することも多いです。たとえば玄関は外からは見えないけれど、車から距離は感じない絶妙な配置。これもすごく助かっています」とご主人が話すとふたりの顔に笑顔が広がった。

中庭からこぼれてくるのは
時間と季節の移ろいを紡ぐ光



家の中心に据えた中庭からの採光が、空間を優しく演出するLDK。TVは壁付けにして部屋を広く活用する工夫も◎



【キッチン&ダイニング】

幅広い高さの棚や作業台にもなる壁高の収納など使い勝手のいいキッチン。料理好きのご主人が腕を揮う機会も一層増えたとか

私の
好きな
場所

人と時間が出合っ
て生まれる
家具の風合いが愛おしい



無駄のない線が美しいステンレスのシステムキッチン。「トーヨーキッチン」。2つの蛇口と掃除しやすいに配慮した床下10数センチの高さが特徴

愛着のある大切な家具に
刻まれた思い出

互いに働いていた福岡で出合ったというIさんご夫妻。休日には、大好きなインテリアショップ巡りをしてきたとか。新居にある家具は、その当時に購入した思い入れの深いものばかりだと言う。中でも一番のお気に入りにはダイニングテーブル。「二人掛けなので、そろそろ手狭になってきたのですが、どうしてもこの質感が好きで手放せなくて」と愛おしそうに見つめる奥さま。「それぞれ買った場所は違うけれど、買った店やメーカー、作られた時代やその時交わした会話も不思議と覚えています」とご主人。I邸の家具の記憶は、ふたりの思い出とともにある。





子ども部屋と寝室の間に設けた家族共有のクローゼット。中にはご主人の大切なスニーカーコレクションも



中庭に向けて大開口の窓を設けた子ども部屋。「しばらくはこの広い空間を自由に楽しみたいです」と奥さま

家を描く建築家の手仕事を凝縮
この場所ではか叶わなかった形。

川沿いのパノラマビューを有する寝室。当初、設計士から「展望室にしては？」という提案があったほどの絶景



廊下を挟んでLDKと向い合せにある和室は、格子状の意匠に奥行きを感じる天井や目線の高さにある植栽など、飽きのこない仕上がり

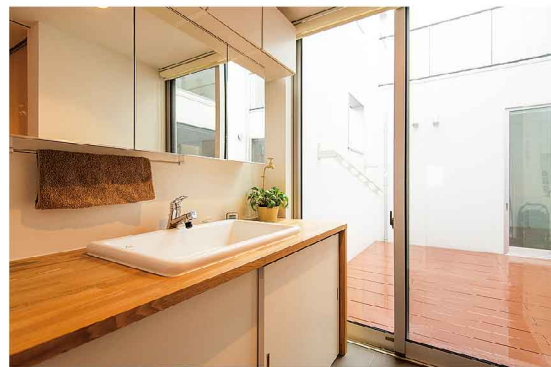
大切にしているものは
家を建てた後のこと

「SORAデザイン」は完成したばかりの見学会だけでなく、入居後、数年経った施主のオープンハウスもあるんです。施主さんの日常の中で、直接お話しを聞いたのは参考になりました！と奥さま。「家事や仕事、子育てにと忙しい中、見学会を開くことは満足な家づくりや丁寧なアフターフォローなしにはあり得ないはず。会社と施主との良い関係が続いている証でしょ？」とも。注文設計で自由な形の家を提案する同社は、引き渡し後も家事や収納のコツやインテリアまで、「住みこなし」についてのアドバイスにも積極的だ。「SORAデザイン」の「大切にしているもの」が、施主との関係に透けて見えた瞬間だった。



静かに心を満たしてくれるのは、
中庭越しに見る家族専用の借景。

額縁のように川沿いの景色を切り取るのは、中庭上部に位置する外壁のデザイン。風や四季の景色を取り込み、1部の暮らしを豊かに彩る



中庭を通れば、玄関から脱衣所へ部屋を汚さず繋がる動線もうれしい。洗濯物は中庭や中庭に面した2階テラスの布団干しに干してもOK

施主と施工会社の関係を
越えた信頼関係

「SORAデザイン」に依頼したきっかけを尋ねた。「雑誌で見かけて問い合わせをしたんです。一度会社でお話を聞いてからは、同社の完成見学会にしか足を運ばなくなりました。日常の生活感を魅力に変えてくれる設計や施工技術の高さ、担当の田崎さんの人柄も好きでした」と信頼を寄せるご主人。「話を聞く内に繊細な気配りのできる方だと言うことが伝わってきた。家づくりの過程でも正直な意見を言ってくれて随分助かったんです」と続ける。Iさんご夫妻と「SORAデザイン」の間には、家族のような穏やかな空気感が漂う。